

挨拶

平成三十年度通常総代会の開催に当たりご挨拶を申し上げます。

本日の総代会に、東北農政局北上土地改良調査管理事務所木村次長様を始め、ご来賓の皆様には年度末公務ご多用のところご臨席を頂き誠にありがとうございます。

日頃は、山王海土地改良区の業務執行に特段のご指導とご援助を賜っておりますことに衷心よりお礼を申し上げます。

また、総代の皆様には、平素事業推進にご尽力を頂いておりますことに感謝を申し上げます。

さて、平成三十年度を顧みますと、管内の稲作は春以来好天に恵まれ、昨年とは一転して暑い夏が戻り、順調に生育され、全国的な作況指数が九十八の「やや不良」の中、本県は一〇一と平年並を確保することができました。さらに新たな米政策の転換による余剰米の発生により、価格の下落が懸念されましたが、農業再生協議会の機能が全国的に発揮され、安定した価格となり安堵したところでございます。

本年におけるダムの貯水、そして取水配水状況は、流域内の積雪が多く、降雨量も適宜にあり、ダムの満水越流が例年より大幅に早い、葛丸ダムで三月九日、山王海ダムでは三月十六日に満水に達した年でありました。

また、水稻栽培の多様化と大規模経営体の利水体系の変化に対応するため、水利権の前倒しの変更について長年要望し続けて来ましたが、東北農政局の御理解により献身的に取り組んでいただき、念願の新たな水利権が許可になり、代かき用水が五日間前倒しされて四月二十

六日から五月十五日までとなりました。これにより水使用が平準化され、作業の効率化が図られたものと推察しております。

さらに九月五日までの通水期間中は、ダム等に機器類のトラブルもなく、適宜な降雨にも恵まれると共に、水利調整組合の御協力により順調に経過して、無事終了することができました。

本年度も全国各地で豪雨や地震による自然災害が発生し、甚大な被害をもたらしました。当区管内では、震度四以上の地震発生はございませんでしたが、大雨洪水警報が五月から十月の期間に四回発令され、山王海土地改良区災害対策要領に基づき、警戒体制を発動しましたが、幸い被害もなく一年間を経過することができました。

次に、平成三十一年度の山王海土地改良区の主な事業について申し上げます。

最初に土地改良区のもっとも重要な使命である農業用水の安定供給を図るため、ダムの貯水量を確保し、配水計画書を基本に十八水利調整組合と連携し、幹線水路を通じて二種水路への公平な分水、配水を行って参ります。用排水施設の維持管理事業につきましては、水利調整組合を主体として、管内二十九の多面的機能支払交付組織と連携しながら営農活動に支障がないように取組んで参ります。

国営造成施設の維持管理につきましては、国・県の指導機関と連絡を密にして、日頃の維持管理を適切に行い、点検及び軽微な補修については、基幹水利施設管理事業等により万全を期して参ります。

次に国営事業の取組みについて申し上げます。

国営土地改良事業「山王海三期地区」は、平成三十年度に調査費が計上され、調査二年目の平成三十一年度は引続き東北農政局北上土地

改良調査管理事務所で施設機能の診断、受益面積の整理、将来の営農計画の検討など、精力的に調査活動が展開されると承知しております。さらに、「防災・減災国土強靱化のための三か年緊急対策」として、「国営造成土地改良施設防災ネットワーク事業」が国費一〇〇パーセントとして創設され、WEBカメラの設置、また重要インフラ対策として山王海ダム、葛丸ダムが採択され事業実施が可能となりました。本事業を採択に導いていただきました、北上土地改良調査管理事務所に対して感謝を申し上げますと共に、本事業の達成に向けて御尽力をお願い申し上げます。

平成二十七年から事業が開始されております「県営農村地域防災減災事業南幹線上流地区」は、平成三十一年度を以って事業完了となります。これまで岩手県盛岡農村整備室の御尽力により事業が順調に施工されております。やがて完工いたしますと防災減災機能が発揮され、地域住民が安心して定住できるものと思っております。

石鳥谷西部地区基盤整備事業は、五月に「県営農業競争力強化基盤整備事業大興寺地区」百八十五ヘクタールが事業計画地区として採択になり、岩手県北上農村整備センターと地元推進委員、土地改良区が一体となって基礎調査が実施されております。二年目の平成三十一年度は営農計画の検討、ほ場整備計画作成などが予定されております。充実した調査が遂行できるように本改良区としても強力に支援して参ります。

さらに「大瀬川地区」二百十七・八ヘクタールは、地区調査同意率が百パーセントに達し、十月に花巻市から岩手県へ調査同意申請書が提出され、調査地区決定がなされることを望んでいるところでございます。

ます。

これからの基盤整備事業は、スマート農業への対応を視野に入れた計画策定が標榜されておりますので、各研修会に担当者を参加させ、知識の研鑽に積極的に取り組んで参ります。

国営事業で造成された山王海ダム、葛丸ダム、幹線水路を始めとして、農業用排水施設の多面的機能が、地域の生活環境に果たしている役割についての「見える化」に、これまでも努めて参りましたが、より一層の充実を図るため、国営造成施設管理体制整備促進事業を有効的に活用し、ダムサイトでの「湖と森のふれあい研修」や各種イベントでの広報活動を行い、また山王海ダム一般公開は、これまでの土曜日開催も含めて、より多くの見学者が来場できるように、日曜日の開催も予定しております。見学者にはアンケート調査をお願いし、回答者には山王海ダム、葛丸ダムのダムカードを昨年と同様に進呈いたします。尚、平成三十年度は、約二百五十名ほどの見学者があり、その内訳は県外六〇パーセント、県内が四〇パーセントでありました。

次に事務の執行体制であります。的確な事業推進を行うため、職員体制の強化が必要であることから、平成三十一年度に技術職一名、事務職一名を新規採用すると共に、定年退職者の継続雇用制度を創設して組合員の要望に対応し、業務の充実化を図って参る所存であります。

また、運営基盤に係る未納賦課金の解消対策は、十一月と十二月を「徴収強化月間」と定め、臨戸徴収を基本として、役職員が一体となり納入促進に努力して参ります。

さて、本日の総代会にご提案申し上げる議案は、土地改良法改正に

伴う定款、規約の一部改正と新たな規程の創設、平成三十年度補正予算、平成三十一年度予算などの十四議案であります。既に役員総代協議会において内容を説明しておりますが、慎重審議の上、全議案ご承認賜りますようお願い申し上げます。

間もなく平成の時代が幕を閉じ、新元号が誕生して新たな時代が始まります。

ここで、三十年間続いた平成の時代における山王海土地改良区の土地改良事業を振り返ってみますと、新たな「豊かな水を求めて」国営水利事業による葛丸ダムの新造、山王海ダムの嵩上げ工事と二つのダムを繋ぐ親子ダム機能の導入、そして将来の水田圃場の利活用を目指して、十四地区三千ヘクタールを大型農業機械の導入が可能となる大区画化と農道整備、用排水分離による汎用化水田の施工、パイプライン化による給水などが県営農業基盤整備事業により施工され、国・県営事業を合わせた総事業費約千二百七十五億円の巨費が投じられております。当時は山、里に重機の音が響き渡り、全国から多くの土木技術者が参集して、活況に沸く土地改良事業最盛期の時代でありました。平成元年は大干ばつ、平成五年は作況指数三十を記録した未曾有の大冷害、平成十九年九月十八日、十九日における大豪雨災害、平成二十三年三月十一日はマグニチュード9の東日本大震災、平成二十五年八月九日は、降雨量一時間当り七十五ミリ以上を記録した県央豪雨災害と経験のない自然災害に悩まされた平成の時代でありました。

来る新時代の農業農村の環境は、高齢化と人口減少による社会構造の変化に対応すべく対策が急務とされております。その対策として政府は若者が夢や希望を持って飛び込んでいける「強い農業」を創ると

し、農地バンク手続きの簡素化と農業の基盤強化を図るとして土地改良予算を大幅に増額し、意欲と能力のある担い手への農地集積を加速し、生産性を高める目標を掲げております。本土地改良区としても、一刻も早く、現在推進している農業基盤整備事業が軌道に乗るよう、役職員が一体となって精力的に活動を展開していく所存であります。

結びに、依然として厳しい農業情勢ではありますが、山王海ダム、葛丸ダムの貯水環境の整備と幹線水路など農業用水施設の万全な維持管理を行い、山王海土地改良区の使命である用水の安定供給に努め、組合員からの要請に対応できるよう鋭意努力して参る所存でございますので、皆様には引き続きご指導、ご支援を深くお願い申し上げます。て挨拶といたします。

平成三十一年三月二十日

山王海土地改良区 理事長 高橋 勘 一